

て建立された。陸奥国分寺は、現在の仙台市木ノ下の地に置かれた。尼寺はその東方 590 m の地に置かれた。荘厳な堂塔伽藍は、やがて中央政府の衰微とともに次第に廃滅に帰し、境内一帯は荒れ放題の有様となってしまった。慶長10年〔1605〕から同12年にかけて、伊達政宗が、薬師堂・仁王門・学頭坊・別当坊・院主坊のほか24坊を修造して、寺領を寄進した。こうして、漸く寺勢を回復したが、明治維新の変革によって寺禄を失って衰微し、各坊も別当坊以外は廃絶してしまった。

大正11年、陸奥国分寺跡として国の史跡に指定された。昭和30年から5か年にわたって発掘調査が行われ、かつての建物の位置や規模が詳細に明らかとなり、陸奥国分寺の偉容をうかがうことができるようになった。

現在の国分寺は、別当坊の跡で、昭和10年この寺号に改めたもので、真言宗智山派に属する。

注(11) p.250の注(16)参照。

注(12) p.247の注(1)参照。

資料 宮城県史 2

## 72. 「六代治家記録」とは

問 「六代治家記録」とは、どのようなものですか。

答 「六代治家記録」とは、第13代伊達慶邦が、4代綱村が創始した修史事業を完結するため、宝暦12年〔1762〕「忠山公〔第6代宗村〕治家記録」以後中絶していた後を継ぎ、国分平・森広畔・作並清亮に命じて、明治7年に編纂を終った治家記録のことです。徹山〔第7代重村〕・桂山〔第8代齊村〕・紹山〔第9代周宗〕・英山〔第10代齊宗〕・正山〔第11代齊義〕・龍山〔第12代齊邦〕の6代の各治家記録であるので、名数的総称を以て「六代治家記録」と称するのであります。全91巻22冊で、原本は仙台市博物館と宮城県図書館とに、各1部保存されています。

なお、「楽山公〔第13代慶邦〕記家記録」が、慶邦の歿〔明治7年〕後、国分平・森広畔・作並清亮・佐藤時彦の担当で編纂され、いわゆる「伊達治家記録」が完結したのでした。

ちなみに、「伊達治家記録」の内、「性山公〔第16世輝宗〕治家記録」・「貞山公〔第1代政宗〕・「義山公〔第2代忠宗〕治家記録」・「雄山公〔第3代綱宗〕治家記録」を名数的に「御四代治家記録」また「四代治家記録」と総称することがあります。

注(1) p.65の注(2)・p.170の注(2)参照。

注(2) p.9の注(3)参照。

注(3) p. 36 の注(5)参照。

注(4) p. 36 の注(5)参照。

注(5) こくぶんたいら。儒者。名取郡岩沼給仕〔きっし〕組の家に生れた。諱は豊章、字は子達、通称平蔵、後に平と改め、松嶼また鶴村と号した。幼時から学を好み、苦学力行、佐藤一斎の塾にあること前後二十九年、一斎門下の十哲と称せられた。学成って伊達家儒員に挙げられ、養賢堂指南役となり、また郡奉行から小姓頭に進んだ。維新後知学局学頭に補せられた。廃藩後世事を離れ専ら子弟を教育した。明治7年教導職の中講義となった。「六代治家記録」・「楽山公〔第13代伊達慶邦〕治家記録」の編纂事業に参加。同12年宮城県会議員となる。又宮城中学校の招きに応じて経書を講義した、生徒3百皆その徳風に感化されたという。天保中凶荒に備えるため、甘藷の栽培を農民に勧めてその普及に努めた。戦前まで名取郡で甘藷栽培が盛んだったのは、彼の首唱によるといわれた。明治32年6月14日歿、享年96、仙台市通町東昌寺に葬る。

注(6) p. 170 の注(2)参照。

注(7) p. 17 の注(2)参照。

注(8) p. 71 の注(5)参照。

注(9) p. 314 の注(7)参照。

注(10) p. 71 の注(4)参照。

注(11) p. 314 の注(8)参照。

注(12) p. 314 の注(9)参照。

注(13) p. 65 の注(2)参照。

注(14) p. 313 の注(1)参照。

注(15) p. 170 の注(1)参照。

注(16) p. 314 の注(6)参照。

注(17) p. 60 の注(2)参照。

資料 伊達治家記録概要（和田清馬。「仙台郷土研究」第18巻第2号の内）

## 73. 三尺三五平について

問 三尺三五平について書かれたものに、どれどれあるか。

答 三尺三五平とは、元禄〔1688 - 1704〕頃の伊達家の軽卒だったと伝えられる人物です。その名